

全国初！「認知症ヘルプマーク」を制作！ ～デザインは、応募作品 293 点から選定しました～

大府市は、認知症の方がまちをひとりで歩いている時やひとりで困っている時に、見守りや援助を受けやすくなるよう、当事者が身につける「認知症ヘルプマーク」のデザインを公募し、293点の中から特賞1点を選定しました。今後は、特賞のデザインを用いて、全国初となる「認知症ヘルプマーク」を制作します。完成品の披露と作者の表彰は、9月21日（土）に開催する「認知症の日」のイベント内で行います。

市は、平成19年12月に認知症の市民が鉄道事故に遭遇したことを受け、平成29年12月に全国初の認知症に関する基本条例「大府市認知症に対する不安のないまちづくり推進条例」を制定し、市民や地域組織、事業者や関係機関と連携して、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを進めています。「認知症ヘルプマーク」が、大府市をはじめ、全国で使用され、認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を温かく見守ることができる共生社会実現の一助となることを期待しています。

■ 認知症ヘルプマークの概要

(1) 概要

認知症やその疑いがある人が身に付け、困っている時などに援助を受けやすくするため使用するもの。

ラバー素材のパスケース（大きさ「横 65 ミリメートル×100 ミリメートル」）にデザインを反映（デザイン領域「横 65 ミリメートル×90 ミリメートル」）させて制作します。

(2) デザイン

選定／4月8日（月）～6月28日（金）に公募。

7月29日（月）に認知症地域支援ネットワーク会議で最終審査を行い、特賞1点・準特賞2点を選定。

応募総数／293点

受賞者 / 特賞 牧野さくら

（マキノ サクラ、岐阜県不破郡垂井町、20歳）



図：牧野さんのデザイン

準特賞 横山知世（ヨコヤマ トモヨ、静岡県静岡市、34歳）

伊藤佳代子（イトウ カヨコ、東京都練馬区、31歳）

特賞のデザインについて / ※作者・牧野さんのコメント

このデザインは、手を差し伸べる様子を抽象的に表現しています。黄色が認知症の人、

白色が手を差し伸べている地域などのまちの人を表しています。黄色は、注目を集める効果がある、明るくエネルギーを持った色で、工事現場や信号など、危険や注意などを伝えるときに使われることもあれば、明るさ・元気・幸せなどの意味も持っています。不安や戸惑いから、黄色のシグナルが出ている認知症の人に手を差し伸べ、差し伸べられた人が明るく幸せになって欲しいという想いを込めました。また、遠くからこのマークを見た際に、ニコっとした笑顔に見えるようにデザインしています。（上図参照）

(3) 認知症ヘルプマークの配布

配布開始日／令和6年9月下旬

※配布開始日について、当初の発表では、9月24日（火）としていましたが、納品の遅れのため、9月下旬になります。ご了承ください。

配布場所・申込／市役所高齢障がい支援課（大府市中央町 5-70）

配布対象／認知症や認知症の疑いがある人

その他／市が使用を認めた他の自治体などにもデザインを提供します。

提供希望の自治体などは、高齢障がい支援課へ。

■ 認知症ヘルプマークのデザイン表彰式

日時／令和6年9月21日（土）13:00～13:30

場所／おおぶ文化交流の杜 allobu 2階会議室（大府市柁山町 6-150-1）

出席者／作者 牧野さくら（マキノ サクラ）、大府市長 岡村秀人（オカムラ ヒデト）

※9月21日の「認知症の日」に開催するイベント内で実施します。

■ 参考資料 認知症ヘルプマークデザイン募集チラシ

【問い合わせ先】

大府市高齢障がい支援課

担当：佐野 隆造（サノ リュウゾウ）、高橋 宏幸（タカハシ ヒロユキ）

電話：0562-45-6289 FAX：0562-47-3150 メール：kourei-shougai@city.obu.lg.jp